

# 平成22年3月期決算発表 補足資料

平成22年5月12日  
日本ガイシ株式会社

□はH22/1見直し

	21年3月期 通期		22年3月期 通期		前期比	23年3月期 通期		前期比
	実績	構成比	実績	構成比		見直し	構成比	
売上高合計	2,732	100%	2,320 2,355	100%	86%	2,700	100%	115%
<海外売上高合計>	<1,433>		<1,221>			<1,480>		
電力関連事業	829	30%	860 873	37%	105%	960	36%	110%
営業利益(%)	76	(9.1%)	80 80	(9.1%)	105%	70	(7.3%)	88%
セラミックス事業	1,308	48%	1,000 1,017	43%	78%	1,130	42%	111%
営業利益(%)	222	(16.9%)	120 132	(13.0%)	59%	190	(16.8%)	144%
エレクトロニクス事業	596	22%	460 469	20%	79%	610	23%	130%
営業利益(%)	30	(5.1%)	20 23	(4.9%)	76%	80	(13.1%)	350%

セグメント間売上消去 -1 -4 -

営業利益(%)	328	(12.0%)	220 235	(10.0%)	71%	340	(12.6%)	145%
経常利益(%)	315	(11.5%)	230 249	(10.6%)	79%	340	(12.6%)	137%
当期純利益(%)	245	(9.0%)	170 178	(7.6%)	73%	250	(9.3%)	140%
R O E	8.1%		6.1%			8.0%		
1株利益	73.7円		54.5円			76.5円		
配当性向	29.9%		29.4%			26.1%		

設備投資	304	11%	209	9%	69%	340	13%	163%
減価償却費	262	10%	189	8%	72%	200	7%	106%
研究開発費	129	5%	107	5%	83%	115	4%	107%

為替レート(円/\$) 104 □94 94 90  
 為替レート(円/ER) 153 □130 130 120

## 平成22年3月期 連結業績の要点

### ① 概況 2期連続の前期比減収・減益

電力関連の売上高はがいしや NAS 電池が堅調で増収となるも、景気低迷の影響を受けセラミックスやエレクトロニクスの需要が大きく落ち込み全体では前期比減収。利益も需要減に伴う生産性の悪化に加え為替円高のマイナス影響もあり、2期連続の前期比減益。

### ② 為替影響 売上△111億円、営業利益△21億円（前期 104円/\$→当期 94円/\$、153円/ER→130円/ER）

### ③ 事業別業績概況

電力関連：前期比 44億円の増収（為替影響△17億円）。がいしは中国市場での需要増により円高影響を吸収して増収。機器配電は景気低迷による需要減により減収。NAS 電池は海外向けの需要が旺盛で増収。利益は機器配電の落ち込みと円高影響を堅調ながいしでカバーし4億円の増益（為替影響△6億円）。

セラミックス：前期比 291億円の減収（為替影響△79億円）。自動車関連製品は各国のインセンティブ効果や在庫調整一巡等のプラスも景気低迷による自動車販売台数の減少が大きく、円高影響も加わり大幅減収。産業プロセス関連も客先設備投資の減少により減収。利益は売上高の大幅な減少や円高影響により90億円の減益（為替影響△9億円）。

エレクトロニクス：前期比 127億円の減収（為替影響△14億円）。ペリウム銅展伸材は市況低迷と円高影響により減収。半導体製造装置用セラミックス製品は半導体メーカーの設備投資抑制による需要減と円高影響により減収。カーブリンター用機能部品はほぼ前期並みに推移したものの、双信電機は情報通信インフラや産業機器向けの需要が低迷し減収。利益は売上高の減少や円高影響により7億円の減益（為替影響△6億円）。

### ④ 連結の範囲 連結子会社数：前期 56社 → 当期 54社、持分法適用会社数：前期 3社 → 当期 3社

### ⑤ 配当：期末配当金を8円とし、中間配当金8円とあわせて年間16円とする予定。

## 平成23年3月期 連結業績見通しの要点

### ① 概況 前期比増収・増益

売上高は電力関連で NAS 電池の伸張を見込み、セラミックスも自動車関連製品で新興国需要の拡大や排ガス規制の強化等により増収。エレクトロニクスにおいても市況回復等により需要が増加し、各事業共に前期比増収を見込む。利益も増収効果や生産性の改善により為替円高のマイナス影響を吸収し、前期比増益となる見込み。

### ② 事業別業績見直し

電力関連：前期比増収。がいしは国内 500kV の大口案件の減少と円高影響により減収。機器配電は避雷装置が減少するも売上高はほぼ前期並み。NAS 電池は海外向け物量増により増収。利益はがいしや機器配電で高採算品が減少し前期比で減益の見込み。

セラミックス：前期比増収。自動車関連は特に欧州でインセンティブ終了による需要減が懸念されるものの、新興国での需要増等による生産台数の回復、米国・中国での規制強化による需要増により増収。産業プロセス関連は客先設備投資が引続き低調でほぼ前期並みにとどまる。利益は自動車関連製品の大幅な売上の増加により前期比で増益の見込み。

エレクトロニクス：前期比増収。ペリウム銅展伸材は景気回復に伴う需要増により増収。半導体製造装置用セラミックス製品は半導体市場の改善に伴う半導体メーカーの設備投資増により増収。カーブリンター用機能部品はリンターの販売台数増による物量増により増収。双信電機は産業機器向けやカーエレクトロニクス向けの需要が回復し増収。利益は売上の増加や費用削減により前期比で増益の見込み。

### ③ 為替影響 連結：売上△57億円、営業利益△16億円（前期 94円/\$→当期 90円/\$、前期 130円/ER→当期 120円/ER）

### ④ 連結の範囲 連結子会社数 56社、持分法適用会社数 2社

### ⑤ 配当見込み：中間配当金10円、期末配当金10円の年間20円とする予定。

平成22年3月期 決算発表 補足資料(第2四半期累計見通し)

平成22年5月12日  
日本ガイシ株式会社

	21年3月期 第2四半期累計期間		22年3月期 第2四半期累計期間		23年3月期 第2四半期累計期間		前期比
	実績	構成比	実績	構成比	見通し	構成比	
	億円		億円		億円		
売上高合計	1,523	100%	1,034	100%	1,250	100%	121%
<海外売上高合計>	<828>		<495>		<710>		
電力関連事業	361	24%	391	38%	380	30%	97%
営業利益 (%)	31	(8.5%)	37	(9.4%)	10	(2.6%)	27%
セラミックス事業	797	52%	442	43%	570	46%	129%
営業利益 (%)	198	(24.8%)	31	(7.0%)	110	(19.3%)	355%
エレクトロニクス事業	365	24%	202	19%	300	24%	149%
営業利益 (%)	61	(16.7%)	-5	-	40	(13.3%)	-
セグメント間売上消去	-0		-1		-		

営業利益	290	19%	63	6%	160	13%	255%
経常利益	289	19%	58	6%	140	11%	240%
当期純利益	188	12%	37	4%	100	8%	267%

設備投資	167	11%	97	9%	170	14%	176%
減価償却費	133	9%	90	9%	90	7%	100%
研究開発費	57	4%	51	5%	55	4%	109%

為替レート(円/\$)

106

95

90

為替レート(円/ER)

162

128

120

平成23年3月期 第2四半期累計期間 連結業績の要点

電力関連は前年同期にあったがいしの高採算案件が減少するほか円高影響もあり減収減益の見通し。

セラミックス事業は新興国を中心に乗用車販売台数が増加するほか、排ガス規制強化による需要増もあり、増収増益の見通し。

エレクトロニクス事業は市況回復による需要増により、円高影響を吸収して前年同期の営業赤字から黒字に転換する見通し。

全社では前年同期比で増収、各利益は大幅な増益となる見通し。